

# Olive News

オリーブ 便り

基本理念 患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。



香川大学医学部 総務課・管理課

かねてより整備を進めていた福利厚生施設棟が、このほど外来診療棟前に完成し、令和5年3月1日(水)から運用を開始することとなりました。

この施設は、患者さんをはじめとした病院利用者へのサービス向上および大学関係者の福利厚生の充実を図ることを目的として整備しました。

構造は、地上2階建てで、建物全体を大きな庇(ひさし)が覆っており、このことによって、雨天時であっても、外来診療棟と福利厚生施設棟間を雨に濡れることなく快適に移動いただけるようになっています。

1階部分には、調剤薬局、患者さんの送迎待合、バス待合、授乳室など、患者さんをはじめとした病院利用者の皆さまに快適にご利用いただける空間を整備しています。



外観



香川大学医学部附属病院福利厚生施設棟

落成式でのテープカットの様子

## 福利厚生施設棟が完成しました



調剤薬局



バス待合



授乳室

また、2階部分には、大学関係者が会議室等として利用可能なマルチスペースを整備しています。

去る2月23日(木・祝)には、この福利厚生施設棟の完成を祝し、竣工式・落成式を開催しました。

式典には、寛香川大学学長、門脇病院長ほか本院関係者と、調剤薬局を運営する日本調剤株式会社の笠井常務取締役ほか同社関係者など、総勢約40名が列席し、新たな門出を祝いました。

本院では、この福利厚生施設棟をはじめ、利用者の方々が快適にご利用いただける環境の整備を今後も進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

## 退職にあたって

香川大学医学部附属病院 麻酔・ペインクリニック科 診療科長  
集中治療部長・手術部長・臨床工学部長 白神 豪太郎

私は、平成20年8月に京都大学から赴任いたしました。当時、巷間で大学病院「麻酔科崩壊」が取り沙汰されており、本院でも、やはり厳しい麻酔科医不足に直面いたしました。増大する麻酔科医需要に応えるため「麻酔科医を増やす」ことが在任中の最大目標でした。麻酔科医療の第1の目標は手術患者さんの安全確保ですが、予後改善（患者さんを苦しめる最も頻度の高い術後合併症は今もなお「痛み」です）も大きな目標です。安全確保と質（特に鎮痛の質）向上のため、超音波ガイド下神経ブロックとオピオイド節減多様式鎮痛、看護師と共働での麻酔科術前評価外来・術後回診チーム、麻酔後回復室（手術室回転効率上昇のためでもあります）設置などに取り組みました。平成23年4月～29年9月、副病院長（再開発・広報担当）として、厳しい予算制約下、病院再開発に微力ながら貢献できたこと、「イキイキさぬき健康塾」を開始したことなどがなつかしく思い出されます。令和元年10月～3年9月、副病院長（企画・診療担当）・医療安全管理部長として、「医療安全ラウンド」で、麻酔科長であったなら絶対に



訪問しなかったような病院内のすみずみまで訪問できたことは楽しい思い出です。平成21年からME機器管理センター（現、臨床工学部）長を拝命し、臨床工学技士さんたちとともに当院の医療機器安全管理の一翼を担えたこと、とりわけ技士長職と麻酔科医アシスタント業務専従職を導入できたことが感慨深く思い出されます。

これまでなんとか「麻酔科崩壊」なく勤めることができましたのも、病院内外の皆様のご支援の賜物です。本年3月で退職となります。14年余、大変お世話になり誠にありがとうございました。

## 定年退職を迎えて

香川大学医学部附属病院 看護部 副看護部長 岡崎 廣子

昭和58年4月に入職し、1年間の滋賀医科大学附属病院での研修期間を経て、翌59年4月より本院に勤務させていただき、令和5年3月末で定年退職を迎えることになりました。入職時を振り返ると、経験は浅いがパワフルな看護師が多く、みんなが「患者さんのために」という思いで頑張りましたし、患者さんからも感謝されることが多かったように思います。しかし、医療制度も変化し、在院日数短縮やDPC制度導入など短い期間で成果を求められ、また患者さんからの要求も多種多様になっています。このような医療環境が大きく変わった中でも、看護師長、副看護部長となってまで看護師を続けることができたのは、「患者さんに喜んでほしい」という思いで日々過ごせたこと、そして一緒に働いてきた看護師の諸先輩方、同期、そして後輩たち、医師をはじめ多職種の方にたくさん助けられたおかげであり、本当に感謝しています。

また、3年間医療安全担当の副看護部長として、医療



安全管理部で看護師GRMをさせていただき、中国・四国地区大学病院や地域の病院とつながりを持てたことで、私自身学ぶことが多く、GRM活動に活かすことができました。

今後も多職種で連携してコミュニケーションの良い関係を保ち、医療の質と安全を保証する地域医療の要として、益々の発展を期待しております。最後になりますが、病院スタッフ皆様のご健勝を祈念し、退任のご挨拶とさせていただきます。



## 定年を迎えて退職のご挨拶

香川大学医学部附属病院 看護部 看護師長 中橋 清子

昭和61年より37年間勤務させていただき、令和5年3月末で定年退職を迎えることとなりました。昭和・平成・令和と時代の変化と共に、医療・看護も驚くほど変化しました。就職当時は紙カルテで記録は手書き、医師の記録が落書きに見えたこともありました。2人夜勤の3交代、PHSもなくナースコールが鳴ればいったんナースステーションに戻り用件を確認して患者のもとに向かうという効率の悪さは日常のあたりまえの光景でした。また、日勤深夜の勤務では深夜の出勤時間を間違えるというエピソードもありました。今振り返ると信じられないような環境だったかもしれません。しかし誰もが創意工夫を凝らし、患者さんのために生き生きと働き、看護することが楽しく充実した幸せな毎日でした。IT化・デジタル化やAI導入が進む今現在でも、看護することの楽しさは変わることはありません。看護という仕事を通して多くの方々と出会いがあり、色々な学びの機会を与えていただき、看護師として、また人として成長することができました。

最後になりましたが、37年という長きにわたりご指導、ご支援いただきました職場の皆様へ心より感謝し、香川大学医学部附属病院のますますのご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



## 感謝を込めて

香川大学医学部附属病院 看護部 看護師長 奥村 典子

私は当院開院前の昭和58年4月大阪府立病院(現在の大阪急性期・総合医療センター)に勤務し、ユニークな先輩や同僚に支えられ看護師生活をスタートさせました。翌年4月より当院に赴任し40年間勤務させていただき、令和5年3月末で定年を迎えることとなりました。これも様々な人との出会いと支えによるものと心より感謝申し上げます。

当院入職後の半年間は2週間~2か月ごとに部署を異動し、その後配属先が決まるというとても斬新な新人教育でした。それから病棟・外来・手術部など様々な部署を経験し、多くの患者さんとの出会い叱咤激励をされながら色々なことを学ばせていただきました。早く先輩看護師のようになりたいと頑張っていた日々が懐かしく思います。今ではたくましく成長していく後輩の姿に感動し、看護師を続けてきてよかったと感じています。最後になりましたが、皆様のご健勝を心より祈念し退職のご挨拶とさせていただきます。



## 感謝を込めて

香川大学医学部附属病院 看護部 看護師長 平木 久美子

昭和58年の病院開設の準備から携わり、10月のオープニングセレモニーに参加してから40年が経ち、3月末日をもち定年を迎えることになりました。当初脳神経外科・第1・第2外科の病棟からの出発でした。何もなかったところから作り上げる病院・病棟は波乱の日々でしたが、同時に毎日本当に楽しかったのを思い出します。

看護師長になった時は、重圧とともに孤独を感じていましたが、決して孤独ではなく、ともに看護する仲間、スタッフがいました。スタッフが育ち、患者さんからいい看護と褒められることが何より嬉しくなりました。人を育てることは難しいけど、とても楽しいことでもあります。後半は、小児・新生児の領域で、医療的ケア児の母の強さとともにサポート体制の遅れを痛感することが多々ありました。今後も何らかの形で、看護に携わっていただけたらと思っています。今まで看護師の仕事を通して出会った患者さんご家族をはじめ、一緒に働いた皆さんに深く感謝し、当院のますますの発展と皆様のご健勝をお祈りします。



## 令和4年 秋の叙勲受章について

香川大学医学部 総務課 職員係

令和4年秋の叙勲（11月3日付）において、元診療放射線技師長の笹川 泰弘氏が保健衛生功労者として瑞宝双光章を受章されました。

香川大学にて伝達式を令和4年12月13日に実施し、病院長から勲記及び勲章が渡されました。



左から3番目が笹川 泰弘氏

## 甲状腺外科外来を開設しました

香川大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療科長 星川広史

この度耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来の中に「甲状腺外科外来」を新設いたしました。近年、頸動脈エコーなど検診時に甲状腺の腫瘍が指摘されることも多く、紹介いただく患者さんが増えています。その際に、一般診にご紹介いただき、そこからさらに腫瘍外来へ再診いただくケースが増えるなど、患者さんの利便性を考えると受け皿を一本化するべきと判断いたしました。利便性の向上を図り、かつ正確な診断に繋げるため甲状腺外科外来を新設し、腫瘍専門の医師が診療に当たることといたしました。

当面は月曜日午前に4枠の新患枠を設定し、3名の担当医が輪番で診察いたします。甲状腺の悪性腫瘍はもとより、手術適応となる良性腫瘍、副甲状腺腫瘍・過形成、バセドウ病など、手術が必要とされる疾患を中心に診療を行う予定です。担当は輪番制のため、初診時の医師と再診時の医師が異なることもありますが、情報共有を密にし、患者さんの不安やご迷惑に繋がらないように努めていきます。紹介依頼の数に応じて診療枠の設定は四半期ごとに見直す予定です。また、甲状腺も含めた頭頸部腫瘍外来はこれまで通り、月、水、金に行っておりますので、そちらの枠にご紹介いただくことも可能です。

当科は音声外科外来も有しており、甲状腺がんや手術に伴う反回神経麻痺後の音声改善手術にも対応できる利点を生かした診療に取り組んでまいります。

ケーブルTVで放送中



詳しくはこちら



3月のテーマ「乳がんについて～検診、治療～」

4月のテーマ「血液型を医科学する」

## イベントカレンダー 2023年3月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
3/19 (日)	10:30~12:00	小豆島中央病院	香川県 脳卒中・心臓病 市民公開講座 in小豆島	脳卒中・心臓病等 総合支援センター	(087)891-5684
3/21 (火)	14:30~18:00	香川大学医学部 臨床講義棟2F	第72回 日本皮膚科学会 香川地方会	皮膚科学	(087)891-2162

編集委員会 (50音順)

岡内(外来)、金西(副病院長)、亀田(病棟)、木内(検査)、小坂(薬剤)、圖子(管理)、筒井(経営企画)、仁尾(医療支援)、松賀(看護)、門田(放射線)、横井(医療情報)、和氣(医事)、渡邊(総務)〔委員長 門脇病院長〕

(2022年12月現在)